

# 明 表 信 所

令和7年12月

湧別町長 加藤 政弘

令和7年第4回議会定例会の開催にあたり、私は就任後、初めての議会定例会となりますので、今後の町政運営に対する私の所信と決意の一端を申し上げ、議員各位をはじめ、町民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

まず、このたびの湧別町議会議員選挙におきまして、当選の栄誉に浴されました議員各位に対しまして、心からお祝い申し上げます。

私も、このたびの町長選挙で、町民の皆さまから温かいご支援をいただき、町のかじ取り役である湧別町長として町政運営を担わせていただくこととなりました。

多くの町民の皆さまより寄せられた大きな期待と、私に課せられた使命と責任の重さに、身の引き締まる思いを強くしております。

負託をいただきました4年の任期のなかで、「ここに住んで良かったと、心から思える湧別町」を目

指し、誠心誠意取り組んでまいります。

始めに取り組むものとしまして、新庁舎建設計画については凍結いたします。

私はこのたびの町長選挙を通じて、新庁舎を建設するか、しないかを争点に運動を行い、皆さまに訴えてまいりました。

その結果、多くの方々が今は新庁舎を建設する時期ではないと判断していただきました。

湧別町の人口は、合併時の1万人から7千8百人へと減少しており、10年後の2035年には6千人程度になると推計されています。

このような時期に、約59億円の新しい庁舎が必要と思えません。

また、財源として地方債の合併推進債を活用しておりますが、あくまでも借金であり、将来において大きな負担になると思っております。

また、近年の建設資材等の高騰により、事業費が

さらに増えることが予想されます。

当面の間は、現在の分庁舎方式を継続すべきであると考えております。

上湧別庁舎は、冷房設備の設置や、情報ネットワーク機器の更新などを行い、継続して使用します。

湧別庁舎は、当面は継続して使用しますが、耐震化の課題がありますので、地域と協議してまいります。

行政機能の完全集約化は、新庁舎の建設や現庁舎の増改築をしない限り困難ではありますが、職員の労働環境にも配慮しながら、上湧別庁舎に一部集約することができないか、検討してまいります。

中湧別小学校跡地における新庁舎建設の設計業務につきましては、令和6年12月に契約を締結し、令和8年3月までに完了する予定で、既に基本設計は終了し、現在は実施設計を進行中ではありますが、契約相手方と協議のうえで、速やかに契約を解除することといたします。

また、将来必要になったときに備え、基金を積み立て、後世の負担を軽減するよう努めます。

庁舎問題につきましては、これまで数年間進めてきた方針と大きく変わりますが、私は、刈田前町長がこれまでに積み重ねてこられた良い政策は、継続してまいります。

例えば、湧別高校の存続対策として公営塾や学生寮の運営、子育て支援、多文化共生、高規格道路の延伸を見据えた中湧別市街地の活性化、小樽商科大学のサテライト施設による高等教育の機会提供などは、その精神に強く共感するものであります。

それをさらに一歩前へ踏み出すために、全力で町政運営に取り組んでまいります。

庁舎問題に関しましては、町民皆さまの関心が高い政策でありましたので様々なご意見がございました。私は町を分断するために町長に立候補し、町長

になったわけではありません。世代の分断を進めようなどとも思っておりません。

これから、皆さまと一体となって「オール湧別」で町政を進めていきます。

次に、町政を進めるうえで、その指針となるのは総合計画です。

令和4年度から10年間の計画である第3期湧別町総合計画は、令和8年度が中間年度となりますので、その見直しをしながら進めてまいります。

また、新庁舎の建設を中止したことによって、将来的にわたって捻出できる予算を、総合計画に基づく他の重点事業にあてていきたいと考えております。

それでは、総合計画の基本目標に沿って、私の所信を述べさせていただきます。

第1は、「安全・安心で快適に暮らし続けられるま

ちづくり」です。

インフラ整備としては、老朽化が激しい水道管や東山浄水場の整備を進めます。

公共施設の統廃合を進め、平成29年から40年間で40%削減する目標を立てております公共施設等総合管理計画は、新庁舎計画の議論のなかで、なかなか進められなかった部分もありますので、計画の見直しをしてまいります。

特に、学校統合によって閉校になった学校校舎の利活用についても検討を進めてまいります。

人口減少と定住対策のため、働く場を確保し、町内に若者が住み続けられるよう住環境の充実を図ります。

災害が少ない湧別町の特徴を生かし、住宅分譲地を新たに整備し、町外からの移住者を増やします。

第2は、「豊かな自然と産業がともに息づく活力あふれるまちづくり」です。

基幹産業である第一次産業では、農業や林業、水産業の新たな技術の導入に対する支援を行い、効率化や収益安定化に努めます。

地域の特性を生かした湧別町ならではの商工業、観光の振興に努めます。

地域の特産品や自然、歴史、文化を観光資源としてアピールし、観光客の増加を図ります。

SNSなどを積極的に活用し、地元製品のブランド化をサポートし、ふるさと納税による販路拡大を目指します。

第3は、「誰もがいきいきと笑顔で暮らせるぬくもりのあるまちづくり」です。

私は、役場を定年退職してから障がい者の自立を支援するNPO法人の設立、運営に携わらせていただくなかで、「誰もが安心して充実した福祉を受けられることのできる町」への思いを強くしております。

高齢者や障がい者に優しいまちづくりのため、交

通弱者に対して足の確保のさらなる充実が必要であることを痛感しております。早急に庁内プロジェクトチームを立ち上げて、検討してまいります。

また、健康で長寿の生活を維持するため、医療機関や高齢者施設の充実に対して支援してまいります。

第4は、「豊かな心とふるさとを愛する心を育むまちづくり」です。

子育て支援とともに、若者が希望をもてる幼児から高校までの教育環境の充実に力を注いでまいります。

本年度、上湧別学園が開校しましたので、町内3つの義務教育学校の連携を強化し、本町がめざす小中一貫教育を推進するとともに、湧別高校2間口の確保に向けて取り組んでまいります。

第5は、「町民一人ひとりが支えあい助け合う思い

やりのあるまちづくり」です。

私は、現場主義を貫き、自ら現地に足を運び、現場を見て、現状を確認します。

そして、町民の声なき声に耳を傾け、町民との対話やふれあいを大切にしながら、ともに汗をかき、地域の課題解決に努めてまいります。

行政改革を推進し、先代の町長が築き上げてきた健全財政を維持するとともに、透明性のある行政運営を図ってまいります。

また、議会と町長が対等の機関として政策提案の場となることが、二元代表制の本来の在り方だと考えております。大いに議論し、町の発展と振興に努めてまいります。

以上、私の町政運営に対する所信の一端を述べさせていただきました。

同時に職員に対しても、私の町政執行に取り組む姿勢を明確に指示・伝達を行い、コミュニケーション

ンを密にしながら、私の基本姿勢であります「現場主義」「挨拶の徹底」を基本とし、職員と一丸となって、元気なゆうべつ実現のため、全力で取り組んでまいります。

湧別町は、豊かな自然と歴史があり、そして人と人とのつながりを大切にする町です。

私は、この町の未来に大きな可能性を感じております。

湧別町は、合併後16年が経過し、人口減少や少子高齢化をはじめとして大きな課題が山積しています。

しかし、町民の皆さまの知恵と力を結集すれば、必ずや明るい未来を築くことができると信じています。どのような時代であっても、「人と人が支えあう心」「地域を思う気持ち」このことが、まちづくりの原動力になります。

私は、この町に暮らす一人として、そして町長と

して、皆さまとともにこの湧別町の魅力を未来へつなげてまいります。

議員各位、並びに町民の皆さまには、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます、私の所信の表明といたします。